

幼児期における自閉症児の指導

—— 個別指導場面における見方の向上と行動変容 ——

川間 弘子*・川間健之介

A Case study of Cognitive Learning in the Infant with Autism:
The Improvement in the Way of Staring at Things and the Behavior Modification
in the Individual Learning Setting

KAWAMA Hiroko, KAWAMA Kennosuke

(Received May 15, 2002)

キーワード：幼児期 自閉症児 個別指導 行動変容

I. 目的

自閉症は、対人関係の障害と言語の障害を含んだ表象機能の全般的障害として捉えられている。宇佐川(1998)は、発達の全体性として、発達の視点から認知能力と対人関係相互の絡み合いを自我発達ステージで具体的に提示している。川間・川間(1998, 2002)は、自閉症児において、同じの概念形成から象徴機能としての文字の獲得が行動面に変化をもたらすことを示した。また、川間(1999)は、知覚運動水準から概念化水準に至る自閉症児5事例が、目の使い方の向上と具体物と絵カードのマッチングといった概念形成に伴って、物や事象、人へのかかわり方に変化をもたらしたことを報告した。

自閉症児は、視覚—運動優位といわれているが、幼児期初期の自閉症児においては、対象をしっかりと見ることなく行動を開始したり、何をどう操作したらよいかかわらず行動の統制がとれないことが多いと感ずる。また、大人との相互交渉において、山上(1999)は自閉症児の乳幼児期について「おとなしく手がかからなかった」「大人の働きかけに対して反応が乏しかった」等の報告をしている。子どもの側からのアプローチの少なさは、養育する側を困惑させ、消極的なかかわりにもつながっていく。幼児期から就学に向けて、集団生活に入るにあたり、状況の理解から、状況に応じた行動がとれ、意思を人に伝えられる力をどう促していくかが問題となる。これまでの、自閉症幼児数名の保護者から、指導を始めて間もなく、「行動が落ち着いてきた」「物に長い時間かかわれるようになっていく」等の報告がある。指導中の指導者とのやりとり、課題の遂行から認知面での発達が行動面での変化をもたらしたと考える。

本報告では、目の使い方の向上と概念形成の課題を通し、物へ関わり、人と物を介してやりとりが成立するまでに至った自閉症幼児1名の指導経過と行動変容について報告する。

II. 事例

*特定非営利活動法人 山口発達臨床支援センター

1. 事例：TH 男子 平成8年1月28日生まれ 6歳0ヶ月 障害名：自閉症

2. 指導開始前の状況

0歳～2歳半：M病院にて、「様子を見ましょう」といわれる。

2歳半～：S整肢学園にて、「自閉症」と診断される。

2歳7ヶ月～：S県心身障害医療福祉センターにて月2回療育

3歳2ヶ月～：リタリン服用、療育でしかよくなるといわれる。

3. 当センターでの指導開始時の様子

1) 指導開始 平成11年7月7日～月4回指導 (3歳6ヶ月～)

2) 津守式乳幼児精神発達検査(平成11年7月27日実施)：運動18ヶ月、探索・操作21ヶ月、社会性(大人/子ども)15ヶ月、食事21ヶ月、生活習慣30ヶ月、排泄21ヶ月、理解21ヶ月、言語21ヶ月。

3) 初回面接時の聞き取り

一人で遊ぶのが好き。形は理解しているよう。音や初めてのものは怖がる。野菜は好き(トマトは嫌い)。食事中に離席する。牛乳やお茶は好き。排泄は、おしっこをしても何も言わない。着脱は半介助。洗面を嫌がる。寝つきが悪い。4月には「さようなら」は「なら」と言っていたのが、今は言わなくなった。(妹が生まれた反発?)

*保護者の願い：お互いの言いたいことがわかるようになりたい。

子どもの言いたいことがわかるようになりたい。

4. 指導期間：平成11年7月～平成14年1月(平成12年11月～13年4月まで中断)指導回数(49回)

Ⅲ. 指導経過および結果(主な課題と行動変容)

表1に指導経過の概略を載せる。

表1 指導経過の概略

期間	水準・学習課題	学習課題の遂行状況	行動面での変化
第1期 H11 7月 ～ H11 12月	パターン知覚水準 見分ける目の使い方	目や耳で運動を調整し始める。繰り返されたパターンの模倣ができる。目と手の協応の始まり。	選択的行動、選択的拒否、要求行動の拡大。パターン化。新しい場面や自由場面が苦手。教材を媒介としたやりとりの成立。
	5色の色の弁別 コイン差し	7月：手元に渡された1枚のチップと5色を見分けて弁別できた。10月：見本と選択肢を自分で見分けていた。	7月：大人への愛着がつきにくい。音楽による情緒的交流。
	リベット差し 大中小	10月：穴の方向に合わせて入れるようになる。 10月：「ここから」と指示されたところから順番に差した。10月：5つの大きさの異なるチップを大きい順に重ねることができた。	9月：アンパンマンの絵をよく見ている。音が気になる。同じ車を2つ持ちたがり、声をかけると取られると思いき激しく嫌がる。できるとうれしそうなお表情をする。食べ物シールは貼るが、食べるまねはしたくない。
	基本図形十 α 他	10月：顔の型はめを怖がらずにできた。分割の型はめ(かに・うま)ができるようになった。ボール状の型はめが気に入る。向きを変えるようになった。色を揃えた。	三項関係はまだできず、教材と本児の関係。目に入ったものに興味に移る。
	同じ概念形成 具体物同士、具体物と絵カードのマッチング	9月：いす、トラックに興味をもつ。トラックは2つ持ち離さない。10月：同じ色のボールを集めてきた。 11月：おにぎりを渡し、ボックスの中におにぎりを入れるのを見せると、箱の外のおにぎりを見て中のおに	

		<p>きりを探した。(視点の切り替え) 11月中旬: 「おなじ」のことで2つずつある玩具を取りに行った。</p>	<p>10月: Tの声に合わせ本のページをめくった。やりとりがスムーズ「ここ」「これここに」のポインティングが成立する。家庭では聞き始めることができ始める(「こんにちは」で関する玩具を取りに行く)</p> <p>11月: 自分で取れないとTの手を引っ張った。音が止まると「アーン」と要求する。Tのガイドを嫌がらずパズルを行いできるとにっこり。11月中旬: したいようにできないと「アーン」と言う。12月から保育園をかえる。12月: ボールの型はめを何回も行う。乗り物の型はめも納得いくまで行った。何かを求めて歩き回るようになった。</p>
	<p>模倣 ことば(音声の模倣) 言葉と動作のつながり、言葉と物のつながり、状況の把握</p> <p>線描き 物の因果関係</p>	<p>10月: 「でき」と促すと「た」と初めて言った。「いちにのそれ〜」と促すと「いちにの」で「それ〜」と言った。「いないいないばあ」の本をTの声に合わせてめくった。「ここにちょうだい」で指示された場所にシールを貼った。10月後半: 「できた」で3回手を合わせた。11月: 「パッ」という声に合わせてページをめくった。「ポテト」のことばにポテトを探す。「これ」と言って本の型はめを要求した。11月中旬: 自分から椅子に座って始めた。くまの型はめの時に「くま」と言った。「ばいきんまん」「いぬ」「べんぎん」を音声模倣した。穴の開いたブロックをトンネルに見立ててトラックをくぐらせようとした。「しかく」「ずぼん」を音声模倣した。「でき」で「た」と言った。「しかく」「さんかく」と言いながら型はめを行っていた。「ごちそうさまでし」で「た」</p> <p>7月: 1度だけ縦線、曲線を模倣できた。</p> <p>11月: 自動販売機の玩具でお金を入れてスイッチをいれた。</p>	
第2期	<p>対応知覚水準 見比べる目の使い方</p>	<p>見比べたり聞き比べたりする。目や耳で運動をコントロールする。対応模倣と模倣の活性化。図形の見分けがうまくなる。見立ての芽生え。手段を3つ以上つなげる。</p>	<p>三項関係遊びの成立。人への親和性高まる。待つこと、応じることがうまくなる。自由場面で遊べるようになる。慣れた場面では情緒が安定。</p>
H11 12月	<p>絵を見て合わせる(4から6分割のパズル)形の合成</p>	<p>2月: 4分割のパズルを絵を見てひっくり返して置けるようになった。長方形と三角のつみきで家を作った。4月: ピタゴラスの形を使って四角をつくり「しかく」と言い得意げにTを見た。5月: 下絵に2分割の絵を合わせた。9月: 6分割のパズルができた。9月: 形の分割で○に半○を重ねた。</p>	<p>形の木片を持っていると落ち著く。 プリン、シュークリーム、ジュースを見てTの顔を見て「なあに?」と言いたそうにした。</p>
H12 10月	<p>同じの概念形成 絵カード同士のマッチング</p>	<p>3月: 牛乳、ポテト、みかん、いすの絵カードに同じ絵を合わせた。</p>	
	<p>模倣 ことば(音声の模倣) 言葉と動作のつながり、言葉と物のつながり、状況の把握</p>	<p>12月: シールを貼るとき、「べったん」と模倣する。「たいこ」「おうち」らしき言葉を真似する。バス、トラックを持って紙の道を走らせた。ブロックを横につなぎだす。歌を真似する。クレヨンを出して、紙を探そうとした。</p> <p>表出言語: 信号機を見て「みどり」、道路標識を見て「まる・しかく・さんかく」</p> <p>理解言語: あり、いぬ、うし、えほん、おりがみ、かき、きりんさん、くま、けーき、こあら、あいあい、すいか、たぬき、とけい、ねこ、はさみ、ひつじ、ふうせん、ほし、めがね、みかん、もも、やかん、えんぴつ、らいおん、りす、かえる、れもん、ろうそく、りんご、うさぎ、ねずみ、ぞうさん、うま、ミッキーちゃん、キティちゃん、あんぱんまん、ばいきんまん、どきんちゃん、ぼーる、め、はな、くち、みみ、て、あし、くつ、スノーピー、ジュース、ぎゅうにゅう、ヨーグルト、プリン、パン、あか、あお、ピンク、みどり、きいろ、しろ、オレンジ、まる、さんかく、し</p>	<p>少し書く新しいページに書きたがる。色をいろいろ塗る。1月: 型はめは始めから一人でやりたがる。できないことは、援助されてできるとうれしそう。</p> <p>2月: 指示された色を差そうとするようになった。呼びかけに振り向いた。隣の部屋に行き、自分からコイン指しを持ってきた。3月: 絵本を持ってきてTの膝の上に座った。できると、頭をなでて欲しいと、Tの手を持っていこうとした。「でき」でTと初めて手を合わせた。(できたのサイン)</p>

		かく、いちご、バイク 1月：形のブロックを持ち名前を言っていた。2月：型はめながら「ばっちゃん」と言う。ものをトンネルにみたてて車を入れた。4月：動物のシールを貼ったあと「上手」と言った。物や色の名前を自分から言った。5月：「座って」でいすに座った。5月：飴の袋を「あけ」とTが言う「て」と言った。	Tが追いかけると喜んで逃げる。4月：Tのつぶやいた色チップを棒にさした。Tが部屋から出るとあとを追いかけた。指示に応じてスムーズにこなした。反応が速く名前で振り向き笑顔
	手の巧緻性	ひもとおして、指示された色を通した。5月：はさみで、開くのは難しい。切った紙を「あげた」と言いながら渡した。自分でやりたがった。6月：スプーンですくってアンパンマンの口に入れ口を動かした。10月：アートパズルをつまむ。迷路の玩具もスムーズに動かせた。	5月：初めて30分離席せずに取り組んだ。この数日トイレで排尿を成功している。家でジュースを一人でコップに注いでいた。次の友だちが来ると、急いで型はめをし始める。手で取られまいとする。5月薬を中断する。よく食べ表情も良くなりよく眠る。
	線描き	3月：細い紙に縦線をTの指の動きに応じて書き、「おかあさんにあげて」で渡せた。4月「たて」に合わせて線を引いた。5月：Tの模倣写で横線を引いた。6月：○・ を模倣写した。欠損図に書き足す(口目)線上はきちんと追えない。9月：「たて」「よこ」声が出た。	6月：1時間座り続けた。初めてセンターのトイレで成功。7月：ひとりで行きたがる。人の介入を嫌がる。遠目でTの行う様子を眺め、いなく居るとやり始めた。9月：傍で提示すると行う。10月：「すごいね」で得意顔。座りたがらない。
	動作模倣 (モデリング) 終わりをつくる (お母さんに渡す、片付ける)	9月：パソコンで色づけ・「ここを押して」で押す。4月：形と色を好む。同じところにシールを貼ろうとした。5月初めて開けた引き出しを閉めてから次を出した。玩具を片付けてから帰ろうとした。	
第 3 期	象徴化水準 模倣の広がり	イメージすることばの理解。細部や全体を捉える力の芽生え。象徴的模倣の芽生え、図形の構成・分解が可能。2容量記憶可。言語的活動の芽生え。	対人関係の相互化、集団に合わせることが可能になる。予測の高まりと情緒の安定。遊びを通して大人とかわることを楽しむ。新しい場面でも情緒が安定してくる。
H13 10月 、 H14 1月	2つの指示 状況の把握・ことば の理解	10月：パソコンで「車の色を変えるよ」で部屋に入った。他のことはしたがない。赤、青を塗る。「これを、こっちに塗って」でペンを選択し塗った。立ちながら行っているときに、いすに座って」とことばと動作で指示されて座った。くつの教材をすべりだいにみだてて「シュー」と言った。「テクテク」といいながら曲線(迷路)を引いた。H13年5月：「ちょうだい」と模倣。「ひろくんと先生は？」で「同じ」と言った。「らいおんさん」と言いながら絵を合わせた。「とって」と言いながらTの手を棚の上に持っていこうとした。Tの声に合わせて3回手をたたいた。6月：懐中電灯をアイロンにみだてた。「赤い四角」「青い丸」は形のほうが優位。8月：針刺しは「も～」と書きながらやりとおした。色を複数塗りたがる。6月：枠を意識してきた。10月：枠の外で組み合わせから枠にはめた。分割された図形を下絵に形を合わせて貼り、形をつくった。	10月：教材を選んできて机の上に置くようになった。アンパンマンの玩具を自分から片付けた。「おわります」の挨拶で初めてTに抱きついてきた。遠足で、友だちと隣通して1時間半座っていた。あざらしが好きで、離れたくないと「いや～」と言った。妹が泣くと自分も近くへ行き泣いた。店で「かし～」と言った。帰りに「ジュース」と言った。H13年5月：「おはよ」と応えた。手すりなしで階段を上った。6月：指示された色を塗りとおした。7月：母の手を引いてテレビまでいくが要求はない(傍にいて欲しい)8月：初めてTと一緒に箱をもちながら片付けた。9月：この頃鏡を見るようになった。10月：療育センターのミニ運動会で、ハンカチをかみながら
	手の巧緻性 色塗り		
	パズル	H13年9月：マリオの形合わせを好み、Tが触ろうとすると「だめ～」と言った。「くみくみスロープ」が壊れると「も～」と言った。11月：数字のパズルは遊びを中断してやり始めた。	
	位置・空間	H13年5月：6分割の空間にTの見本と同じ位置に人形を入れる(ひとつずつ渡されて入れた)。	

模倣写	白抜きの「たしま」を起点を指示されて書いた。始点から終点まで補助線なしで引き続けた。○の模写は□に近いが初めてできた。欠損図の□が□になった。8月：「は」の白抜きを書く。アンパンマンの顔に「○-○」とめがねを書いた。□が思うように描けずに「あ〜」と怒った。9月：\線の模写ができた。	も頑張りとおした(予測できていなかったため、辛かったよう)11月：歯磨きをわかっていてもやらなくなった。しかると磨く。11月：途中でやめようとしたとき、「あーあ」と言うとかごまで玩具を持っていき片付けた。「えらいね」でにっこり。11月：「ここにしてほしいなあ」というと合わせてくれるようになった。Tがメロンの玩具の中に入ったジャガイモの玩具を必死にとろうとしているのを見て笑ひ、自分もやりたそうにした(やりとりがスムーズ、気持ちの共有)。冬休みに50ピースのパズルを一緒に行ったとのこと。一緒に遊べるようになった。何か落とした時お母さんを見る。
絵カードと名称のマッチング 文字と具体物、絵カードのマッチング 大小と長短の2つの要素、高さ	「くつ、かさ、なす、いす、とけい」から「〜とって」で選択でき、「これなあに」で名称を応えた。9月から一字一音の文字に入った。8月「は」10月「め」、絵カードを見て「は」「め」と言い文字を選択した。11月「て」始点終点に自分でシールを貼って書いた。7月：見本に合わせようとするが、全体を比較していない。かかわりを受け入れた。形の分割のマグネットシートは怒らずにかかわりを受け入れた。8月：まちがえそうになり「ん〜」と言いながらもやりとおした。	
組み合わせ	12月：「らいおんがいいなあ」「こっちがいいよ」のことばかけに納得して入れ替える。パズルを取って欲しいと抱きつき、「よいしょ」と言う。「ねえ、やって〜」のことばかけに仕方なさそうに付き合う。H14年1月：部屋に誰もいなくても、自分からマリオのパズルを片づけ始めた。	

1. 第1期(平成11年7月～平成11年12月)

【パターン知覚水準】見分ける目の使い方・同じの概念形成(具体物同士のマッチング)

《かかわり方》視線を引き付けてから提示する。視線の先を逃さない。一試行終了後かさず次の課題を提示する。教材提示の位置、順序。まちがえさせないこと。

《達成状況と行動変容》手元のチップと5色を見分けるようになった。コインは穴の方向に合わせてられるようになった。「ここから」の声とポインティングの援助で10本のリベットを順番にさせた。大中小5つを弁別できるようになった。分割パズルは形、色を見て合わせた。トラック2つを持って離さない。「同じ」で具体物を2つ持ってきた。「パツ」にあわせて本をめくるようになった。ブロックをトンネルにみたててトラックをくぐらせた。⇒音が気になる。声をかけられると取られると思ひ激しく嫌がる。できるとうれしそうな表情。物との二者の関係。Tの声にあわせて行動。「ここ」のポインティングの成立。Tの手を取り要求行動が出る。できないと「アーン」という。好きな教具を何回も行う。着席時間が長くなった。

2. 第2期(平成11年12月～平成12年10月)

津守式乳幼児精神発達検査(平成12年10月実施)運動30ヶ月、探索・操作30ヶ月、社会性(大人/21ヶ月子ども21ヶ月)、食事21ヶ月、排泄18ヶ月、生活習慣30ヶ月、理解24ヶ月。

【対応知覚水準】見比べる目の使い方と同じの概念形成(具体物と絵カード、絵カード同士のマッチング)

《達成状況と行動変容》絵を見て4から6分割のパズルを合わせるようになった。長方形と三角形の積み木で家を作った。形を見て名称を言った。分割の形を合わせて統合できるようになった。ポテト、みかん、いすの絵と具体物を対応できるようになった。縦線・横線は模倣写できるようになった。⇒名称がわからないものは、Tの顔を覗き込むようになった。形の教材が好きになり、木片を持っていると落ち着く。

3. 第3期(平成12年10月～平成14年1月)

【象徴化水準】模倣の広がり

《達成状況と行動変容》ことばだけで部屋に入った。「これを…に〇〇して」等2つの指示に応ずるようになった。教材を滑り台や動物に見立てるようになった。枠を意識してきた。声に合わせて、「テクテク」言いながら線を引いたり等ことばと動作が伴ってきた。細かな違いのパズルや型はめを好むようになった。Tと同じ位置に操作できるようになった。四角の模写ができるようになり、うまく描けないと苛立った。身近な絵カードと名称は結びついた。⇒自由遊びが増え、途中で介入しても「も～」と言いつつも中断しやりとりできるようになった。製作中の物が壊れると「も～」と言ったり、嫌なとき「いやー」と言えるようになった。鏡を見るようになった。わかっていてもごまかそうとしたり、顔色を見て「あ！」のことばに慌てて行動する様子も見られた。「～して欲しいなあ」で行動できた。

IV. 考察

3年間の指導を、宇佐川(1998)における自我発達水準をもとにまとめてみたが、ものの見方・かかわり方と人に対するかかわり方、情緒面を照らし合わせて見ると、いくつかの段階があった。まず、第1期において、ものを見分けて操作し始めたときには、物と自分との関係(二項関係)であり、人は課題を遂行するための手段であり、ほとんど相手を見ずに行っていた。第2期において、見分ける目がしっかりしてくると、教材の好き嫌い(得意・苦手)もはっきりしてきた。この間、指導者の援助により課題が遂行し、教材を媒介にした三項関係が成り立ち、離席することも少なくなり、課題をやり通すようになった。好きなことができるようになり、相手援助を必要としなくなったあたりから、介入をこばみ、一人で好きなことを行いたくなった。この時点でこのままにしておいたら、好きなことの幅も狭いままと考え、積極的に介入するようになった。第3期では、形・色が好きになったことから、教材を形・色に絞った題材とし、課題を上げていく中で、さりげなく援助したり、指導者の様子をさりげなく見せるようにすると、そっと近づいてくるようになった。見比べがしっかりしてきて模倣ができ始めたときから、線描きやことばでのやりとりを増やした。模倣ができはじめると、人の表情や声のトーンの違いを感じ取り、行動を調整する様子がみられるようになった。昨年末からは、「やってほしいな」「こっちがいいんじゃない？」などのことばを聞いて、相手のする様子を見てから行動を起こすような様子もみられるようになった。一緒に遊んでいるような感覚でかかわれるようになっていく。

自閉症の幼児期の子どもたちとかかわり、物へのこだわりやパターン化、スムーズに視点が移行しないことは、自閉症の特性といわれているが、それだけに限定されないように考える。宇佐川(1998)によれば、対応知覚水準では三項関係が十分成り立つ。本事例においても三項関係の成立は第2期、すなわち対応知覚水準からであった。自閉症児の三項関係の成立しにくさを指摘している文献は多い。一般に自閉症児は表象機能の獲得に困難を示すことが指摘され(例えば、太田・永井, 1992)、それはその前段階の三項関係の成立に問題があると推測される。ちょうどその時期が対応知覚水準である。太田のステージではstage IIにあたる。認知発達においてはこの段階で自閉症児特有のつまづきを指摘している研究はこの他にもある(白石, 2001)。このように考えると、発達段階が今よりも高まれば解決できる部分も多い。今よりもより豊かに人やものにかかわれるために、今の発達状況を把握しながら、『慣れたことならば情緒的に安定できる』、『人の様子や雰囲気を感じ

取り行動調整できる』対応知覚水準までを就学前までに、幼児期の間を獲得させたいと考えている。

文献

- 川間弘子(1999)：自閉症児の認知発達と行動の変化―目と手の協応から概念形成に至る過程―. 日本特殊教育学会第37回大会
- 川間弘子・川間健之介(1998)：自閉症児の文字指導の事例―基礎学習から5音節の単語構成と書字まで―. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 9, 41-50.
- 川間弘子・川間健之介(2002)：個別指導場面における自閉症児の見方の向上と行動変容. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 13, 141-146.
- 太田昌孝・永井洋子(1992)：自閉症治療の到達点. 日本文化科学社.
- 白石正久(2001)：思春期・青年期までの自閉症児の発達と指導. 全障研京都支部企画, 自閉症.
- 宇佐川浩(1998)：障害児の発達臨床とその課題―感覚と運動の高次化の視点から―. 学苑社. 児の発達と指導, 全障研出版部, 81-125.
- 山上雅子(1999)：自閉症児の初期発達―発達臨床的理解と援助―. ミネルヴァ書房.